に関する生態学的研究—IV. カジメ藻体における相対生長の季節変化。三重大水産研報 **11**：199-206.

MONSI, M. und SAEKI, T. 1953. Über den Lichtfaktor in den Pflanzengesellschaften und seine Bedeutung für dei Stoffproduktion. Jap. J. Bot. **14**: 22-52.

谷口和也・山田悦正 1978. 能登飯田湾の漸深帯ヤツマタモクとノコギリモクの生態。日水研報告：**29** 239-253.

谷口和也・加藤史彦 1984. 褐藻類アラメの年齢と生長。東北水研報告 **45**：15-19.

田中次郎・横浜康継・千原光雄 1984. 藻場生物群集。p. 38-46. 丸茂隆三編. 海洋の生物過程。恒星社厚生閣，東京.

ニュース

韓国藻類学会の創立

1986年8月19日，ソウル大学校において韓国藻類学会創立準備委員会が，次のような趣意のもとに開催された。「韓国においてはノリの養殖が世界で最も古くから行なわれ産業の一つとして発展してきたが，藻類研究が活発になったのは，多くの研究者が輩出した1960年からです。それ以降，藻類の分類・生態・微細構造・生理や遺伝の各分野にわたって，基礎的研究のみならず応用的研究も活発に行なわれ，韓国の藻類学は大きな発展をみました。此処に各分野の研究者が相集り協力し合って，韓国における藻類研究を統合してさらに推進する為に，また外国の研究団体との交流を盛んにし，それらの研究活動にも参加して藻類学の発展に貢献する為に，韓国藻類学会の創立が，多くの研究者によって強く要望されている現状にある」(趣意書の内容は，鄭濬氏の日本語訳をもとに高橋がまとめた)。そして，会長に姜悌源釜山大学校教授が，副会長に鄭濬慶北大学校教授が選出された。他に編集委員長の李仁圭ソウル大学校教授を含む26名の理事が決定し，韓国藻類学会は第一歩を踏みだしました。そして昨年12月に，韓国藻類学会誌第1巻第1号が刊行された。隣国での藻類学会の誕生を心から祝うとともに，今後の発展の為に，日本藻類学会会員の方々の援助と交流を願うものです。 (高橋 永治)

本章には，以上のほか栄養吸収量の測定法，生体内の炭素配分の解析法，熱量測定法，コンブ属の1種の個体の生長パターンを利用した群落生産量の推定法などが含まれている。

生物相互作用を扱った第4章は，海藻相互間の競争，被食，病理という3つのテーマに分かれている。全体で65頁を占め，400篇近くの文献が引用されているが，テクニックの具体的な説明は少ない。これらの分野は，文献数は多くても，まだ発展初期の段階にあるのであろう。

本書全体としては，テーマを多く抱えすぎたため個々のテクニックに分ける頁数が不足ぎみになっているような印象を受けた。ほとんどの場合，本書内の説明だけでは実際の調査や実験を始めるに不十分であろう。しかし欠点は長所の裏がえしでもある。内容の多彩さとそれに付随する豊富な引用文献（約1700篇）は本書を大変価値あるものにしている。（筑波大学下田臨海実験センター　横浜康継）

ニュース

―第3回国際藻類学会開催のお知らせ―

第3回国際藻類学会議（The 3rd International Phycological Congress）が国際藻類学会（IPS）の主催で明1988年8月中旬にオーストラリア国メルボルン市で開催されます。一般の方々も含めて多数の参加を歓迎しております。第1回案内は IPS 会員には届いておりますが，改めてここに概要をお知らせします。

1. 会　期　1988年8月14日（金）～20日（木）
2. 会　場　メルボルン市 Monash University（市中心より南東 20 km）
3. 参加費　一般は $A 280（邦貨約30,000円），但し学生及び同伴者は半額（この中には大会中のエクスカーションと懇親会の費用を含む）
4. 会　議　特別講演（4名），シンポジウム（12課題），口頭発表（4会場），展示発表（説明時間指定）及び関連集会（希望者は予め大会事務局に連絡のこと）が企画されています。予定されている特別講演は，Light and Algae (Dr. J.T. Kirk), Antarctic Phycology (Dr P. Broady), Stromatolites, Seagrass, and Salinity: The Marine Botany of Shark Bay (Dr D.I. Walker), and Evolution of the Dinoflagellates (Dr F. J. Taylor) シンポジウムは Cell and tissue culture in algae; Gene transfer and cloning techniques; Structure and assembly of cell surfaces; Picoplankton; Phylogeny of phytoflagellates; Phytoplankton ecology in frontal and upwelling systems; Molecular biology of sexuality in algae; Photophysiology of the algae; Physiological implications of salinity for algae; Determinants of community structure in the intertidal and subtidal zones; Heavy metals and algae; Phenology of marine algae です。会議はすべて英語で行われます。
5. エクスカーション　会期中1日及び半日のエクスカーションがいくつか企画されています（費用は参加費に含まれています）。その他に会期前後には3～9日間のエクスカーションがいくつか企画されていますが，これらは別に費用が必要です。
6. 申し込み〆切
   1）第2回案内（最終）　1987年8月（第1回案内に同封されている申し込みカードに返送する必要がありますので大会事務局又は日本藻類学会事務局に問い合せて下さい。）
   2）エクスカーション　1987年12月1日
   3）大会参加　1988年2月1日
   4）講演要旨　1988年4月15日
7. 大会事務局
   The Secretariat 3rd IPC, Department of Botany, Monash University, Clayton, Victoria, Australia 3168

（市村　輝宜）

日本藻類学会事務局変更のお知らせ

昭和62・63年度の学会事務局は下記に変わりました。

〒606　京都市左京区北白川追分町
京都大学農学部熱帯農学専攻内
TEL. 075-751-2111（内線 6355, 6357）
振替　京都 4-47438

なお，投稿原稿は，下記の日本藻類学会編集幹事宛に送付して下さい。

〒657　神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学理学部生物学教室内
TEL. 078-881-1212（内線 4429）
振替　神戸 2-70133

Change of Office and Editor

The new Editor of the Japanese Journal of Phycology for 1987–1988 is Yoshihiro Tsubo of Kobe University, Starting in January 1987, manuscripts for publication should be submitted directly to the Editor, **Prof. Y. Tsubo, Department of Biology, College of Liberal Arts, Kobe University, Nada, Kobe, 657 Japan.**

Membership dues should be sent to **The Business Center for Academic Societies Japan, 4–16, Yayoi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113 Japan** and all other inquiries should be made to **The Japanese Society of Phycology, c/o. Division of Tropical Agiriculture, Faculty of Agriculture, Kyoto University, Kyoto, 606 Japan.**